

(10) 資源・漁獲情報ネットワーク構築事業

予算

水産庁委託

概要

水産業の発展のためには効率的な資源の管理が必要であり、資源評価の精度向上を図る必要がある。そこで、海洋環境変化を捉え、資源評価精度を底上げし、資源評価体制の整備のためのデータベースの構築、さらにネットワーク化し、データの効率的な蓄積・解析を目指す。そのために以下の取り組みを行う。

- ・環境DNA等を活用した新たな資源情報の収集
- ・IT技術を活用し漁船からの直接情報収集
- ・上記情報に加え、漁業や市場等の水揚げ情報のデータベース化

令和元年度は大阪湾内の12地点で表層水および底層水を採取、主要魚種の環境DNAの測定を行い、分布把握につながる基礎データの収集を行った。同時に大阪湾内の20地点で小型底曳網（石桁網）による調査を行い、実際の主要魚種の分布状況の把握を行った。更に、石桁網に装着したロガーからクラウドサーバーへの曳網データ保存、および現場でクラウド上の環境データを確認する試験と、タブレットを用いた漁獲物データの入力試験を行った。

担当者

辻村浩隆、山中智之、木村祐貴、堀耕友